

「既存IT資産を有効活用するクラウド移行」 ～自律型データベースをはじめとした Oracle Cloud最新情報～

日本オラクル株式会社
クラウドプラットフォームソリューション統括
Cloud Platformビジネス推進本部 ビジネス推進第二部 部長
桑内崇志

- 以下の事項は、弊社の一般的な製品の方向性に関する概要を説明するものです。また、情報提供を唯一の目的とするものであり、いかなる契約にも組み込むことはできません。以下の事項は、マテリアルやコード、機能を提供することをコミットメント（確約）するものではないため、購買決定を行う際の判断材料になさらないで下さい。オラクル製品に関して記載されている機能の開発、リリースおよび時期については、弊社の裁量により決定されます。

OracleとJavaは、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。
文中の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。

今日の内容



- 1 ▶ Oracle Cloud 概観
- 2 ▶ Oracleの最新戦略 自律型データマネジメント
- 3 ▶ Oracle Database Cloud Serviceの特徴とその活用

Oracle Cloud 概觀



Oracle Cloud Platform のグローバルでのモメンタム

14,000+

Oracle
Cloud Platform
Customers



3,000+

Apps in the
Oracle Cloud
Marketplace



\$1.4 Billion

FY17 Oracle Cloud
Platform
Revenue
(60% YoY Growth)



10 PaaS

Categories where
Oracle is a **Leader**
According to
Industry
Analysts



Oracle Cloud戦略 最も完成されたクラウド



Data-as-a-Service

Data Cloudは、幅広いOracleおよびサードパーティのソースからデータを提供します。

Software-as-a-Service

Oracleは最も統合の進んだSaaSのスイートを提供し。AIの活用でビジネス変革を支援します

Platform-as-a-Service

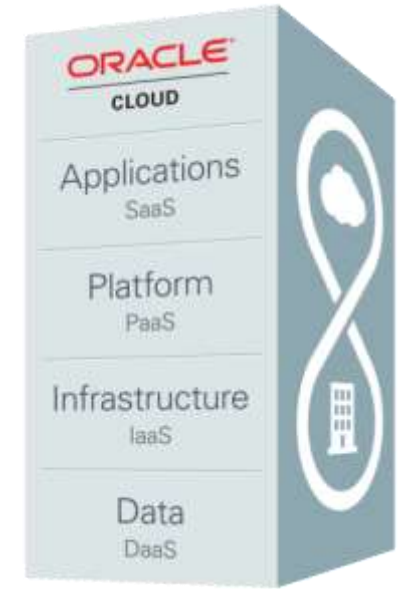
DatabaseやJavaをはじめ最先端かつ業界で最も広範なサービスを提供します。

Infrastructure-as-a-Service

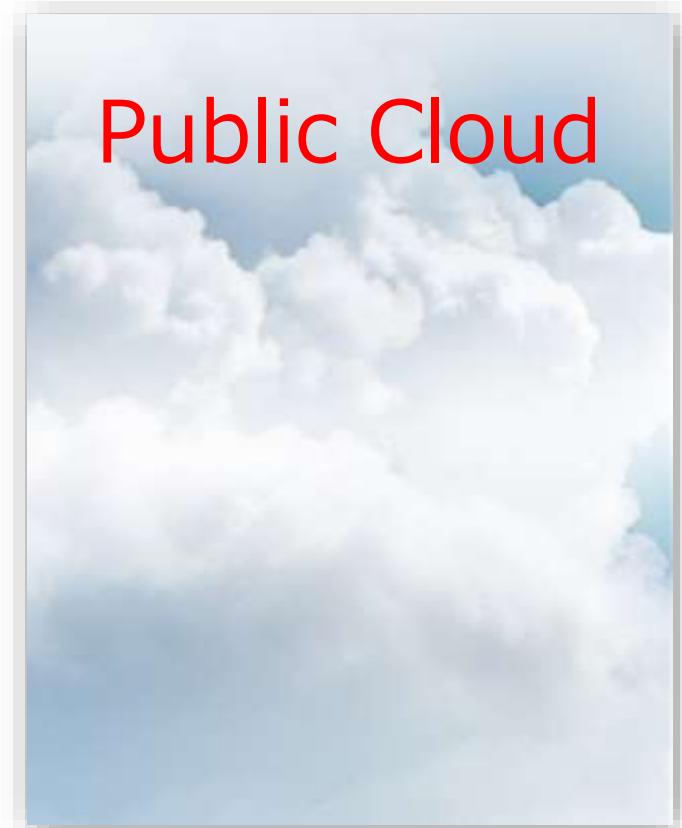
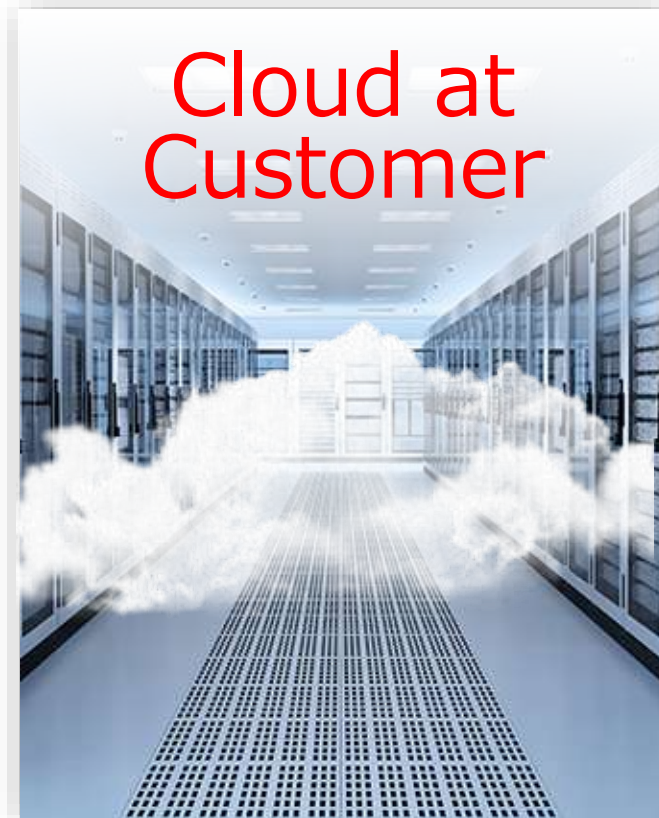
業界で最高のパフォーマンスを誇り、コストを最小限に抑えたサービスを提供します。

Oracle Cloud: 6つのデザイン・ゴール

- **互換性**: オンプレミスとクラウドを行き来が簡単
- **コスト**: もっと低い導入価格 – もっとも低いTCO
- **セキュリティ**: サイバー攻撃に対する防御を常にオン
- 信頼性: 耐障害性 – 単一障害点の排除
- 性能: 最速のデータベース、ミドルウェア、アナリティクス…
- 標準: SQL, Hadoop, … Java, Node.js … Linux, Docker



オラクルは3つのデプロイ・モデル



すべて同じアーキテクチャ、自由に移動可能

Oracleの6つのクラウドへのジャーニー



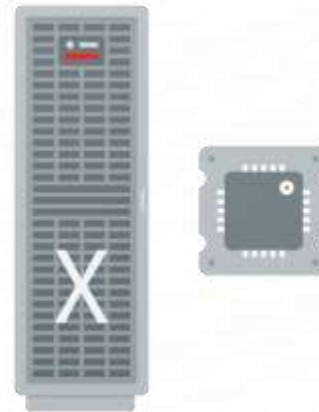
Oracle Cloud Platformとその特徴



SaaS



PaaS



IaaS

ORACLE®
CLOUD PLATFORM

オンプレミスとの互換性

トータルで低コストを追求

セキュリティ

オンプレミスとクラウドで標準化されたアーキテクチャ

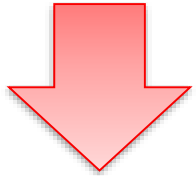
エンタープライズ向けのオンプレミスの仕組みをそのままクラウドへ



Oracle Cloud Platform は標準準拠 : No Lock-In

標準技術を採用し、クラウドサービス間のアプリ資産の可搬性を担保

一般的な
PaaS



アプリケーションは他のク
ラウドでは動作しない

採用時はその点に留意
が必要

Oracle Cloud Platform

上のアプリケーション

- **Java**
- **SQL**
- Linux
- Web Services
- HTML5
- Xen VM

デプロイメント選択肢

ORACLE
CLOUD

amazon
web services™
IaaS

Microsoft Azure

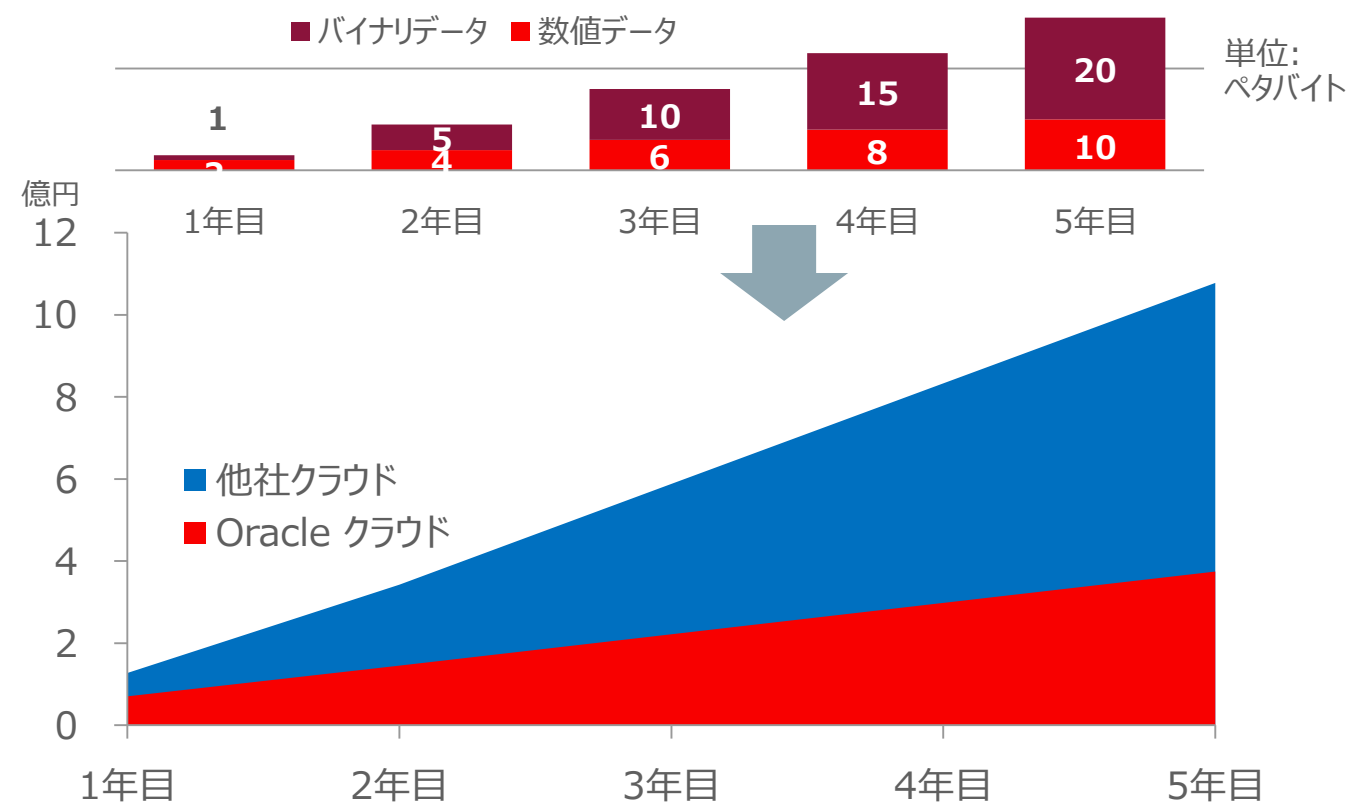
**自社
データセンター**

他クラウドベンダーよりもトータルで低コストを追求

- データ蓄積保存コストは永年蓄積を想定した場合、この割合が大きくなるとTCOへのインパクトが大
- オンプレミスの方がトータルコストが低減できる場合も多々あるため、オンプレミスとクラウドの行き来がし易い基盤が望ましい
- クラウド内のストレージ使用もデータライフサイクルに応じた配置先の変更(Tape/Storage $\longleftrightarrow$ HDFS $\longleftrightarrow$ RDB) が容易な基盤が望ましい



低価格へのコミット



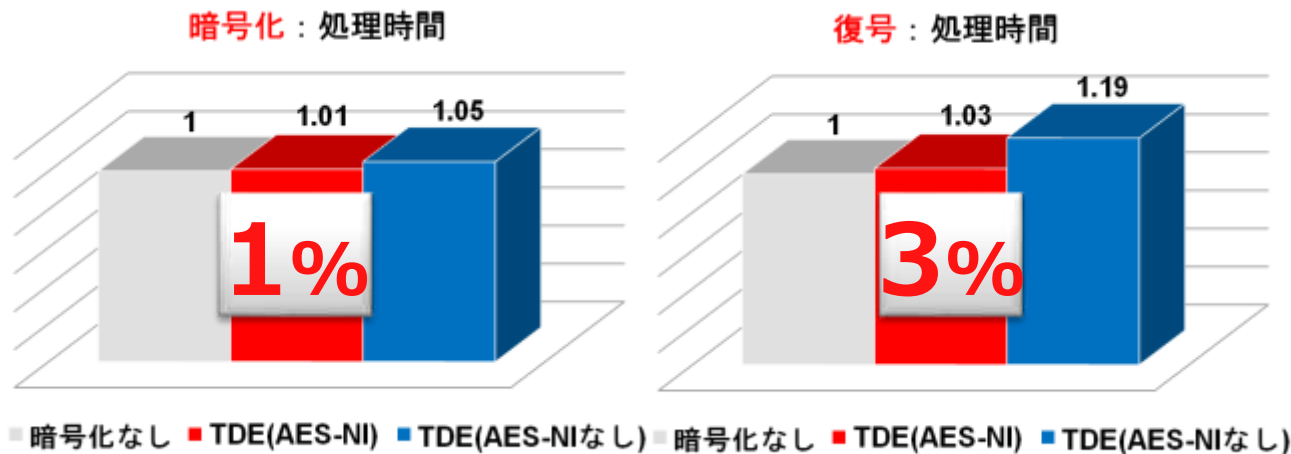
ある顧客での他社クラウドとのデータ保存コストの比較 (試算結果)

データの暗号化 : Transparent Data Encryption (TDE)

[ご参考] 性能劣化を極小化した暗号化メカニズム

Intel/SPARCプロセッサの暗号化アクセラレーションによるDB暗号化・復号化

バッチ処理のオーバーヘッド



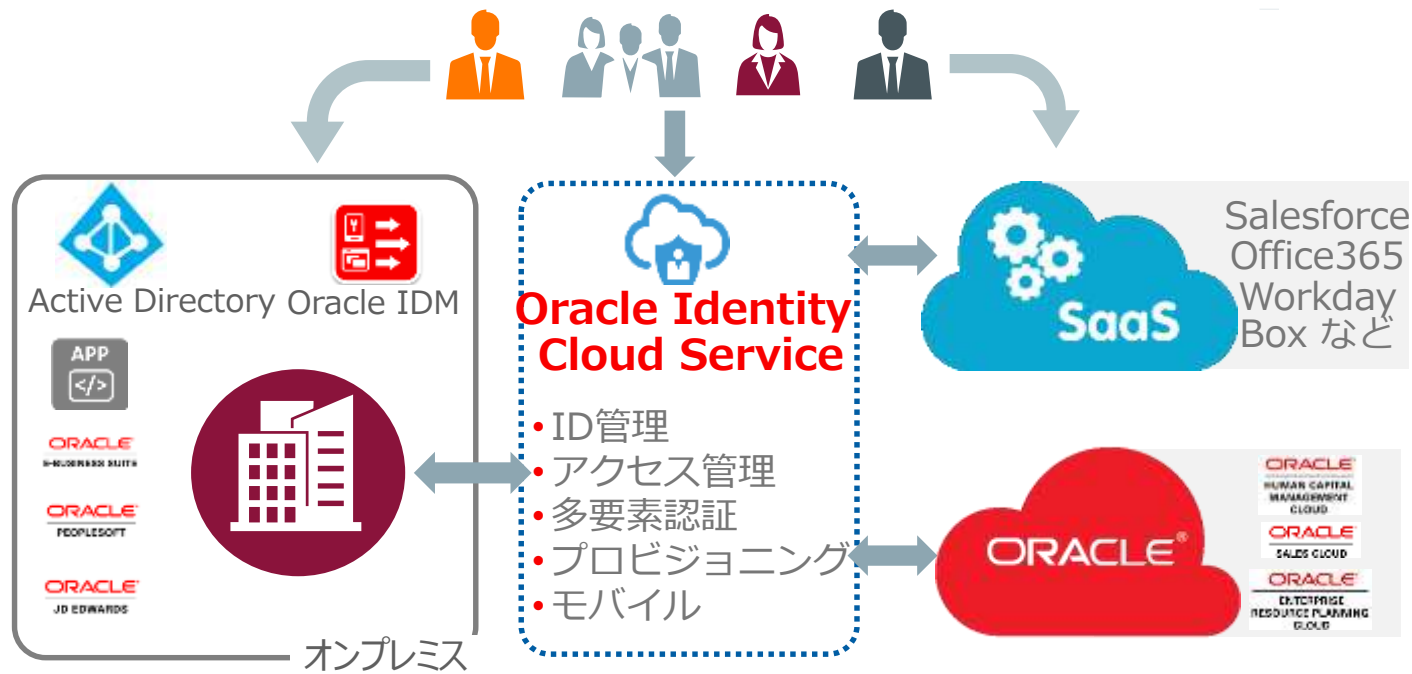
AES-NI:データ暗号化処理をさらに高速化する暗号化命令セット

1. アプリケーションの改修なく実装可能
2. CPU内でデータの暗号化/復号化処理を実行

－パフォーマンス劣化を防止

Oracle Identity Cloud Service

クラウドネイティブ、マルチテナントで実装されたIDaaS (ID as a Service)



SAML, OAuth2.0, OpenID Connect, SCIMなど
標準技術・標準規格を採用

シングルサインオン

- 各サービスはIDCSに対して認証することでシングルサインオンを実現
- オンプレミス環境も含めたハイブリッド環境のシングルサインオンを実現

多要素認証

- SMSを用いたワンタイムパスワードや、iPhone、Android等のモバイルアプリを提供
- 一度認証した端末は、一定期間第2認証のスキップが可能

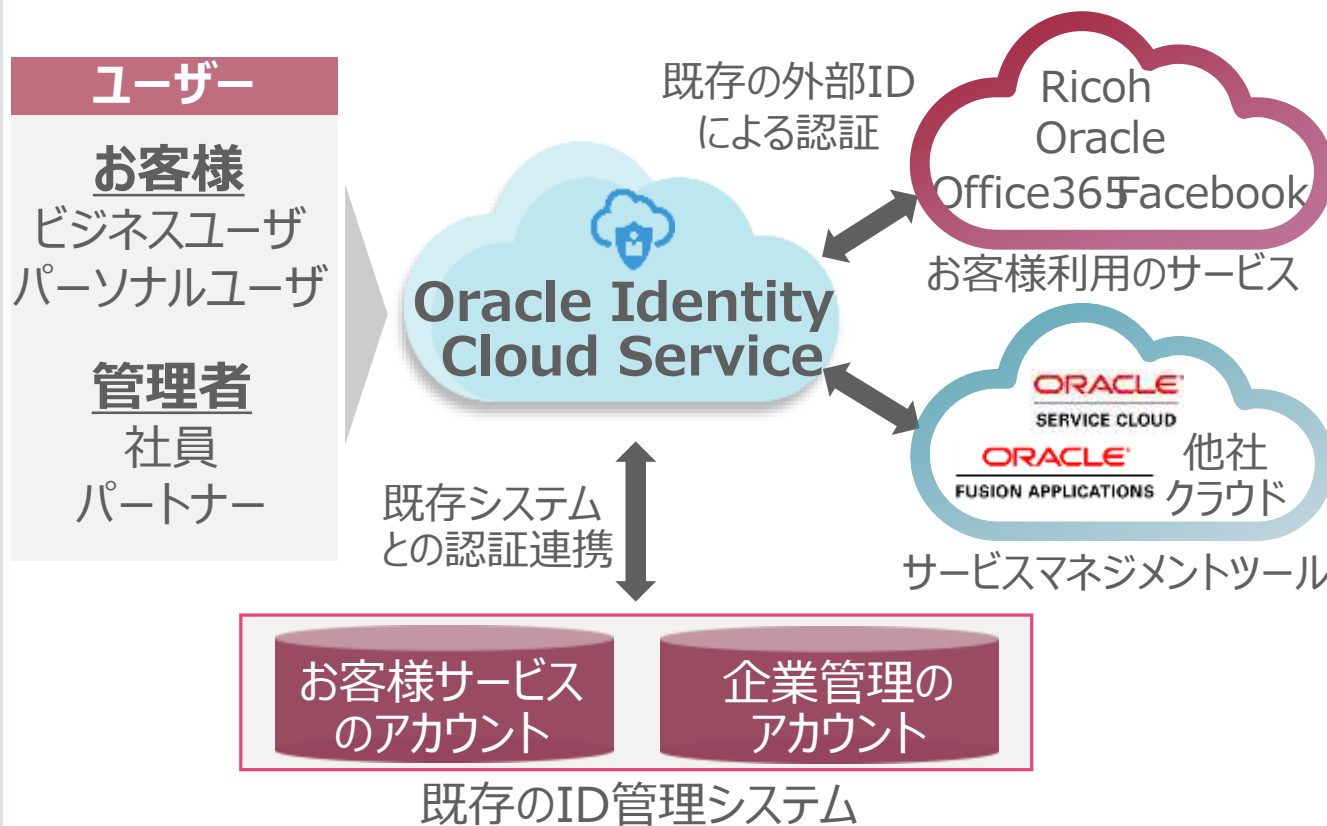


プロビジョニング

- Oracleや他社のSaaSへのプロビジョニング対応
- SaaSアカウントとIDCSユーザーの同期

[ご参考]事例：株式会社リコー様

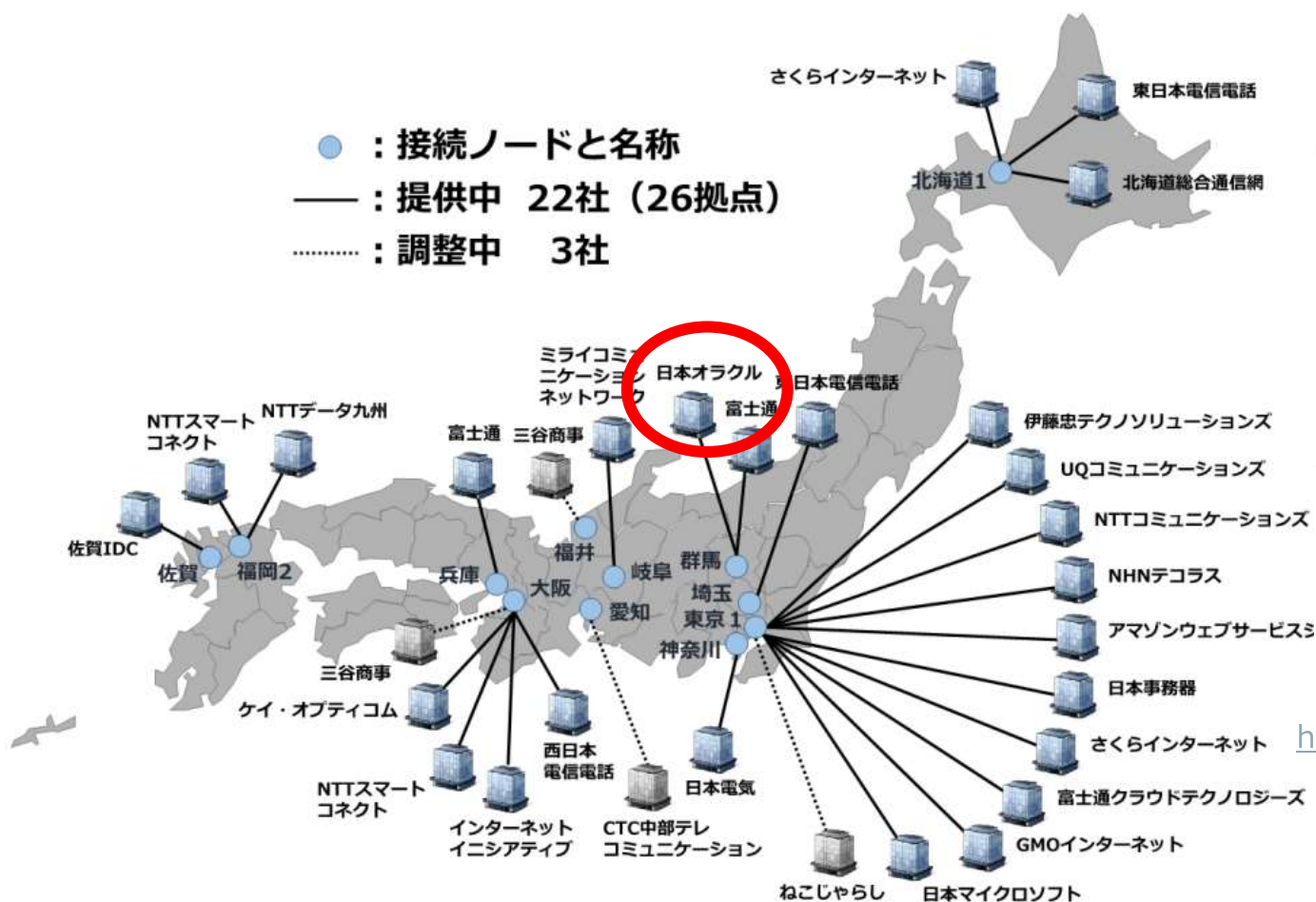
IoTビジネスにおけるクラウド型のID管理により“柔軟性とセキュア”を両立



マルチクラウドでのID管理を実現

- 位置情報を活用した「病院向けソリューション」や「街の活性化ソリューション」などセンシングソリューションビジネスのID管理・認証基盤として「**Oracle Identity Cloud Service**」を利用
- 社内外を問わず、一元かつ柔軟にID管理を行うことで、**全ての認証／認可を一元管理**
- 既存のIDを使った認証連携による**利便性向上**
- 個々のサービスの連携設定は、**数時間で完了**
- 将来的には、他社のサービスとAPI連携やIoT機器の認証・認可に活用

Oracle Cloud SINET 接続始めました。



(群馬) 日本オラクル株式会社

Oracle Cloud

公共営業統括 SINET担当

mail: sinet-oracle_jp_grp@oracle.com

https://www.sinet.ad.jp/service_provider/service_providers_list より

Universal Credit



ご紹介 : BYOL to PaaS および Universal Credits



**Bring Your
Own License
to PaaS**



**Universal
Credits**

**Oracle Cloud Platformの購入・利用を簡素化する
革新的な価格モデルの変更**

BYOL to PaaS | 概要

- PaaSにお持ちのライセンスを持ち込み、管理を大幅に自動化することで、運用コストを削減可能になります。
 - 従来IaaSに対してのみライセンス持ち込みが可能でしたが、今回PaaSに対応しました。
- BYOL to PaaSにより、IaaSと比べてもわずかな費用をプラスすることでオンプレミスライセンスをPaaSに移行可能です。
 - 例：Database EEをBYOLからDatabase Cloud Serviceへライセンス持ち込みした場合のレートは\$144 / OCPU / Month
- Oracle Database、Exadata、WebLogic、SOA、OBIEE、ODI、GoldenGateなど、様々な製品で使用可能です。

Universal Credits | 概要

- Oracle Cloud Platformで利用可能な単一のクレジット・プール（購入単位）
 - すべてのIaaS および PaaS サービス
 - 公開された新しいサービスはすぐに利用可能
- 全てのサービスは時間単位で課金
- レート・カードが、サービスごとの時間単位の請求額を決定



自律型データマネジメントで
お客様データにもっと価値を

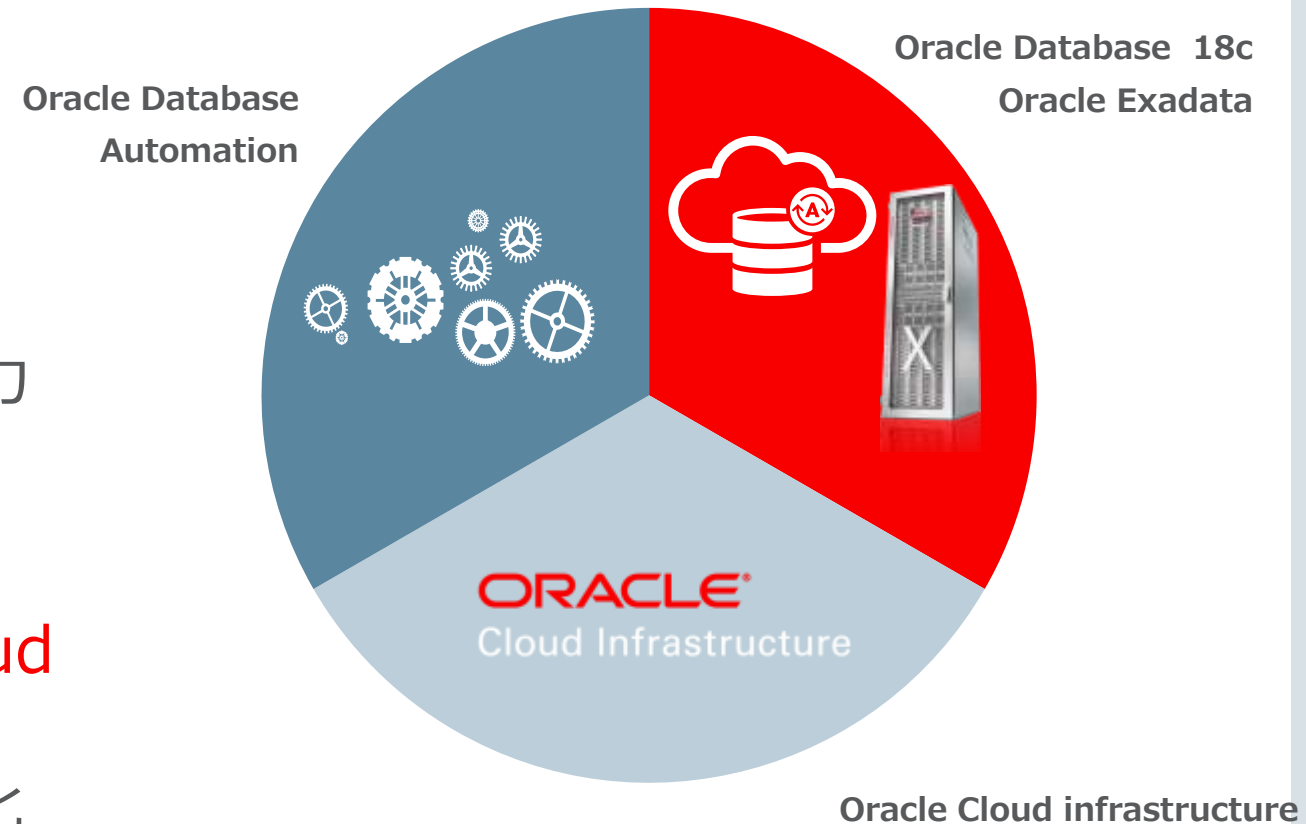
自律型データベースに対するオラクルのビジョン



- 🕒 **Self-Driving (自動稼働)** - コスト削減し生産性を向上
 - 人手を介さずに構築、チューニング、バックアップ・リカバリを実現
- 🔒 **Self-Securing (自動保護)** - リスクの最少化
 - 外部攻撃と悪意のある内部ユーザから保護
 - ダウンタイムなしでセキュリティ・パッチを自動適用
- ⚙️ **Self-Repairing (自動復旧)** - 高い可用性の確保
 - 全てのダウンタイムからの自動的な保護
 - 最大99.995%のSLA。1ヶ月のダウンタイム2.5分以内

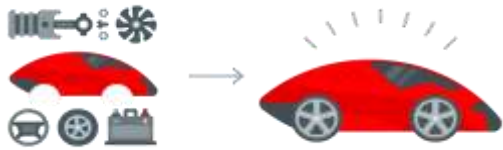
Autonomous Database を構成するテクノロジー

- **Oracle Database 18c + Exadata**
 - 多くの自動化されたデータベース機能
- +
- **Oracle Cloud infrastructure**
 - セルフ・ドライビング・オートメーションに注力し、統一された標準プラットフォーム
- +
- **Oracle Autonomous Database Cloud tooling**
 - それぞれのワークロードを自動的に最適化



Autonomous Database – 自律型データベース

予め構成・最適化
・テスト済み



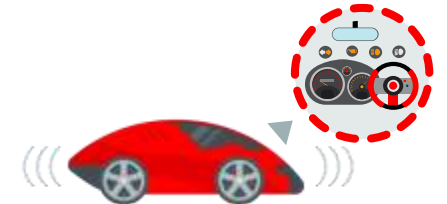
自動的に
オンラインでパッチ適用



自動的に
セキュアな構成



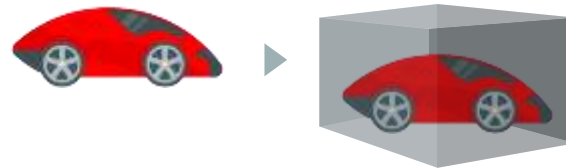
自動的に
モニタリング



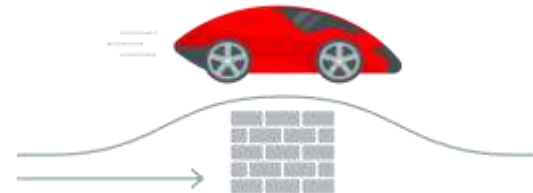
自動的にスケール



自動的にバックアップ



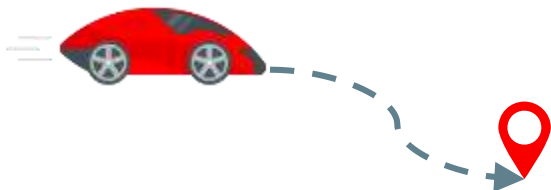
自動的に障害回避



自動的に
パフォーマンス診断



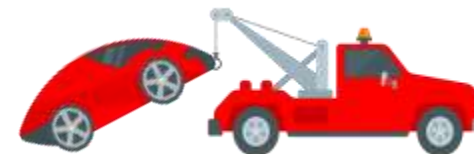
自動的に最適化



自動的に変更
をセキュア



自動的に
エラーハンドリング



自動的に
移行とデータロード



参考：自動化(Automated) vs. 自律型(Autonomous)

- Automated

- 語源: automatos (1611 ラテン語)
 - 自分で働く、外力に頼らない、管理は必要

- Database Cloud Service

- 様々な自動管理機能が利用可能。
- DBAにより制御、管理



- Autonomous

- 語源: autonomos (1800 ギリシャ語)
 - 自分自身の法律で(自律)、独立の、自律神経系により制御された

- Autonomous Data Warehouse Cloud

- 全て自動管理。
- DBA不要
- Data Warehouseのコア機能に注力
代わりに、チューニングまで自動化



違いは複雑な構成かシンプルな自動管理か：Autonomousでは一般的なDBAの運用作業がなくなり、データベース・エキスパートの業務量が低減されコスト削減。論理設計やポリシー設計などより上位業務に集中可能

Autonomous **Data Warehouse** Cloud

データウェアハウスのための自律型データベース・クラウド



簡単に使える

簡単な設定ですぐにDBが構築、利用可能に
チューニングが不要でデータ管理に人手をかけない
パッチ適用やバックアップの自動化 - DBA工数の削減



パフォーマンス

Exadataのテクノロジーを最大限活かした高速性能
大規模な同時アクセスにも対応
AWS Redshift と比べた優れたコストパフォーマンス



柔軟性

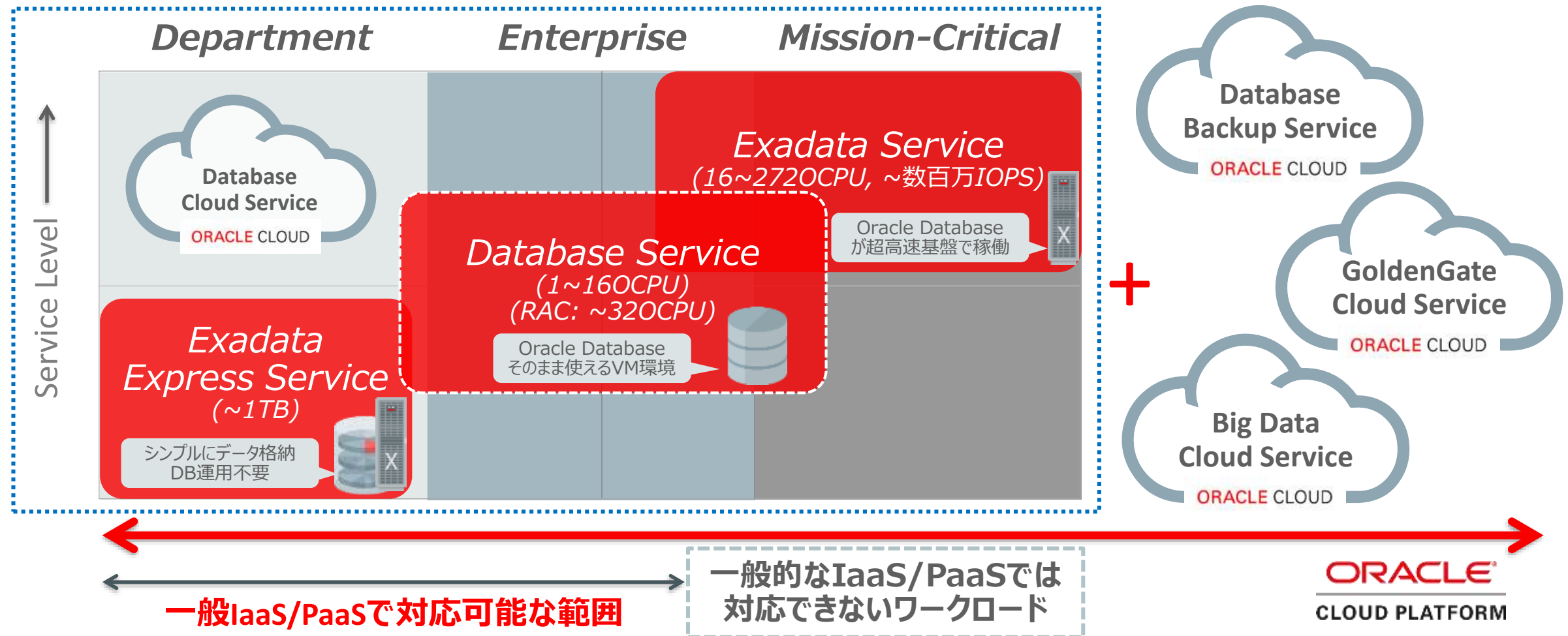
初期投資不要、使った分だけの課金
CPUやストレージは稼働中に拡張・縮退可能
ピーク時にリソースを増やす、不要時に停止など柔軟



Database Cloud Serviceの特徴とその活用

Oracle Cloud Platform: Data Management Services

様々なサービスレベルに対応するデータベースと関連サービス群



Database Cloud Service 6つのポイント

潜在的な管理コストを含めた**TCO削減**

IaaS の実現範囲

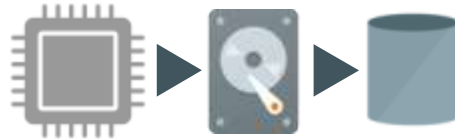
No



インフラ管理は
不要

さらに Oracle PaaS で実現できる範囲

1.デプロイ



数クリックで
プロビジョニング

2.運用監視



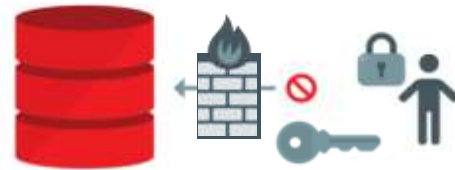
クラウド専用
モニタリングツール

3.高可用性



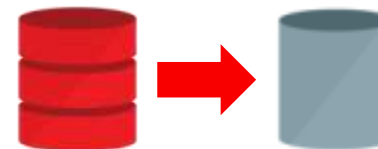
容易な可用性対策
Backup/HA/DR

4.セキュリティ



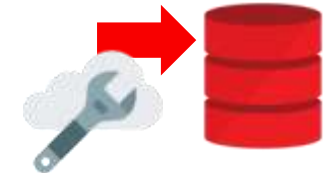
データ/通信
デフォルト暗号化

5.クローン



容易なテスト・開発
スナップショット
クローニング

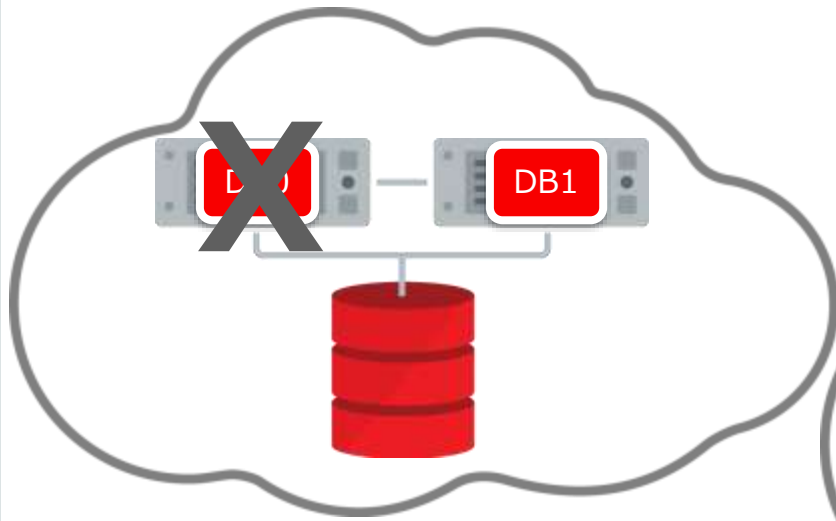
6.パッチ



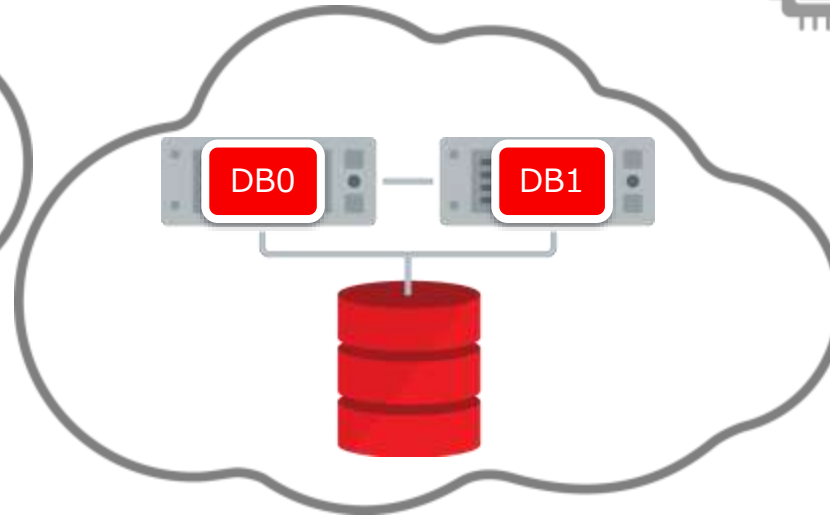
ワンクリックで
パッチ適用

Oracle Real Application Clusters

クラウド上でも従来と同様のクラスタ技術を容易に実現可能



高可用性



拡張性



迅速な
プロビジョニング



ローリング
パッチ適用



オンプレミス
同様の管理

**RAC構成を
選択するだけで
実現可能**

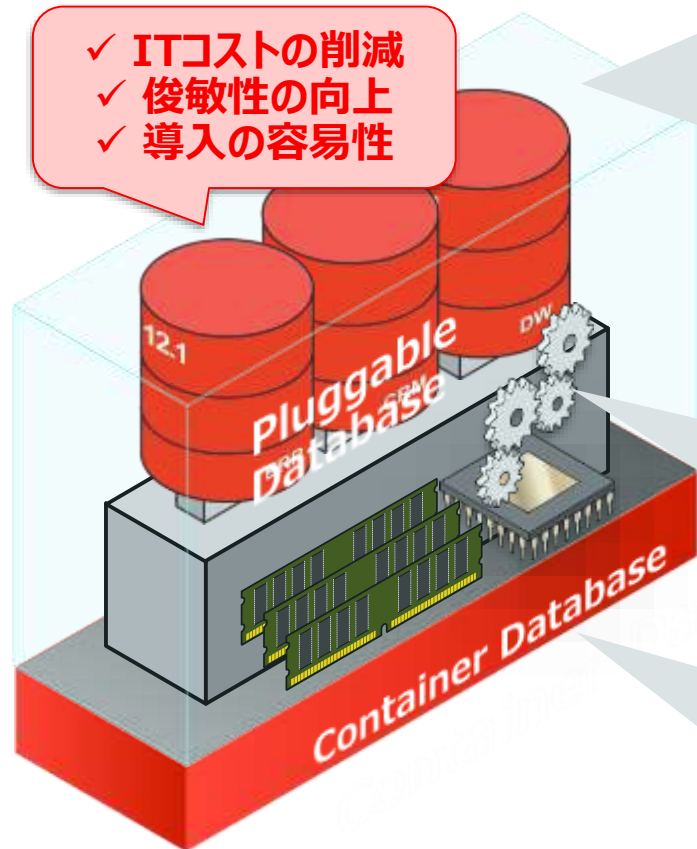
エンタープライズ・パブリック・クラウドで初めて **Oracle RAC** を提供
Oracle Cloud は **Oracle RAC** をサポートする唯一のクラウドサービス(※)

※本日時点

データベース・クラウドを支える新たな基盤

Oracle マルチテナント・アーキテクチャ

- ✓ ITコストの削減
- ✓ 俊敏性の向上
- ✓ 導入の容易性



アプリケーション毎に自己完結型の Pluggable Database (PDB)

- アプリケーション改修不要
- データ分散性・セキュリティの確保
- クローニングで迅速な導入
- プラガブルで移動性の向上

PDB間でCPUとメモリ資源の共有

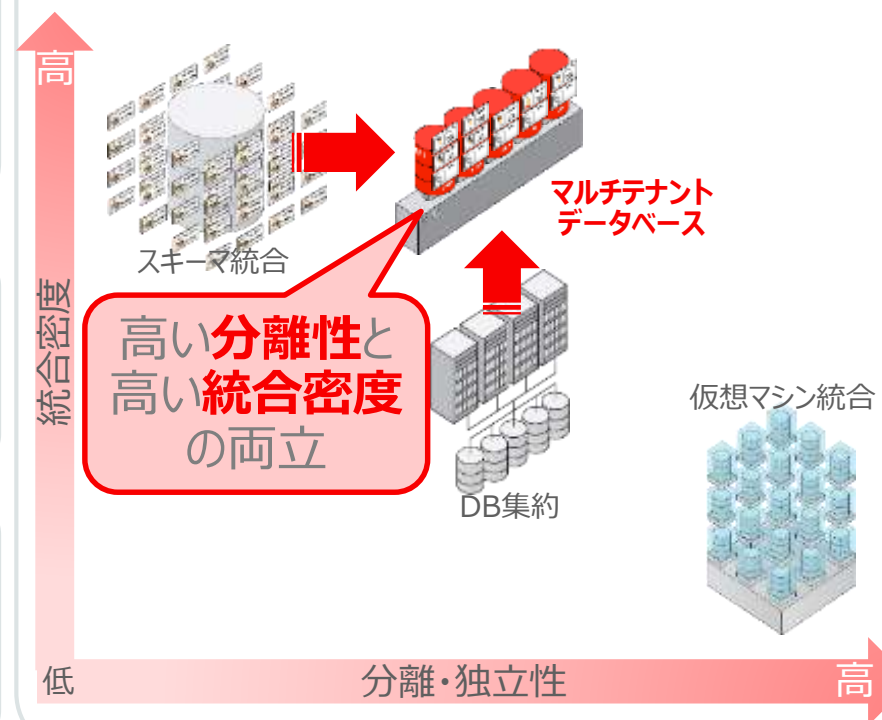
- サーバー当たりより多くのアプリケーション(DB)をサポート
- より効率的なリソースの使用が可能

Container Database単位での 運用・操作の一括実施

- 複数DBを1つのDBとして管理可能
(アップグレード、パッチ適用、バックアップ等)
- 必要に応じた粒度の細かい操作が可能

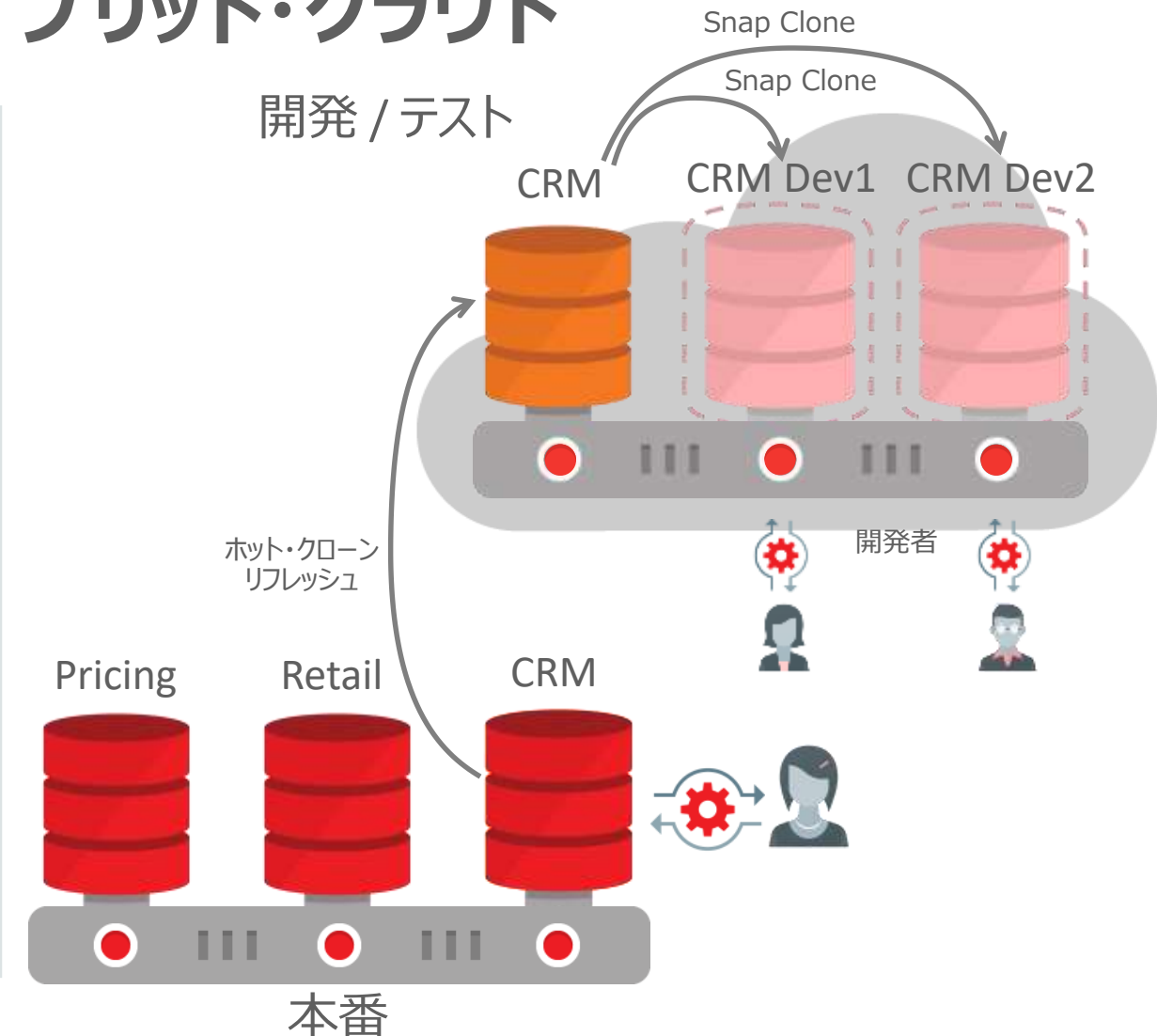


マルチテナント・アーキテクチャのポジション



Oracle Multitenantによるハイブリッド・クラウド

- PDBはUnPlug-Plugまたはホットクローンでオンプレミスからクラウドへ容易に移行可能
- クラウド環境で短時間に開発環境を構築可能
 - テストマスターからクローン構築
- 本番環境とデータの同期の可能



ハイブリッド・クラウド管理

Enterprise Manager : 単一コンソールからオンプレミス/クラウドを管理

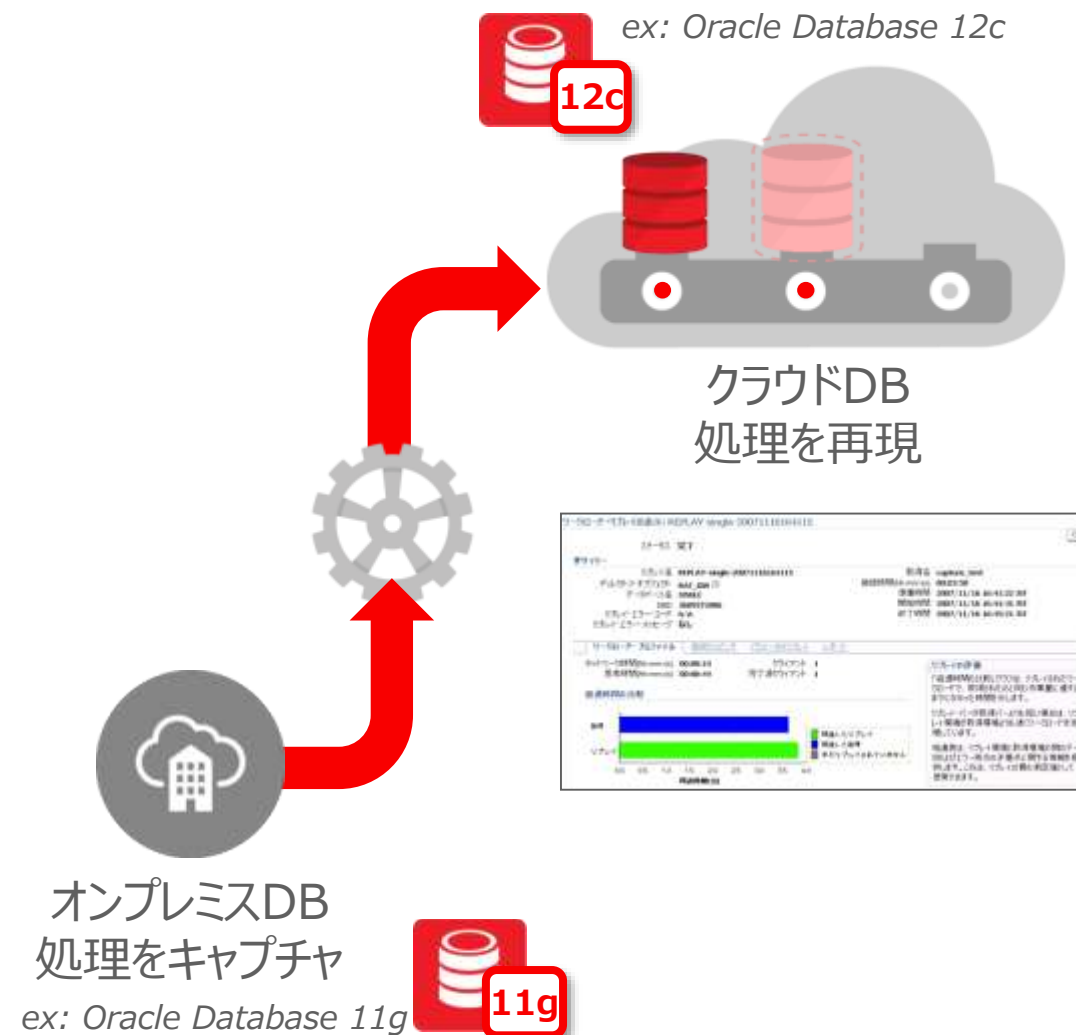
The screenshot displays the Oracle Enterprise Manager Cloud Control 13c interface. The main panel shows a list of databases under the 'Databases' section. Two databases are highlighted with orange boxes: 'ORCL.gsehytm003.oraclecloud.internal_PDB1' and 'salesCDB.localdomain_SALES_PROD'. Two orange arrows point from these boxes to two pop-up windows on the right. The top pop-up window is for 'ocpord1 (コンテナ・データベース)' and the bottom one is for 'mbcl.jp.oracle.com (コンテナ・データベース)'. Both windows show a 'パフォーマンス' (Performance) menu with options like 'トップ・アクティビティ' (Top Activity), 'ASH分析' (ASH Analysis), and 'SQLモニタリング' (SQL Monitoring). The 'クラウド' (Cloud) and 'オンプレミス' (On-Premise) labels are overlaid on the respective pop-up windows.

Name	Type	Lifecycle Status	Status	Target Version	Incidents	Average Compliance Score	Members
HR11gPROD	Database I...	Production	↑	11.2.0.4.0	0	98	0
ORCL.gsehytm003.oraclecloud.internal	Database I...	Production	↑	12.1.0.2.0	0	N/A	0
Pluggable Databases							
ORCL.gsehytm003.oraclecloud.internal_PDB1	Pluggable	Production	↑	12.1.0.2.0	0	N/A	0
salesCDB.localdomain	Database I...	Production	↑	12.1.0.2.0	0	98	0
Pluggable Databases							
salesCDB.localdomain_SALES_PROD	Pluggable	Production	↑	12.1.0.2.0	0	98	0

データベース・アップグレード検証

- Oracle Cloud 上で最新のデータベース・バージョンを迅速に準備
- **Real Application Testing (RAT)**を使い、オンプレミスでのワークロードをキャプチャし、クラウド上で忠実に再現
 - クラウド上でアプリケーションの準備は不要
 - バージョンアップ、パッチ適用、パラメータ変更、新機能導入の際に、その効果・影響を事前に調査可能

Database Cloud
なら RAT も
従量制に含まれます



事例：Database Upgradeコストの削減

外為どっとコム様 - FX取引システム

■ 課題・ニーズ

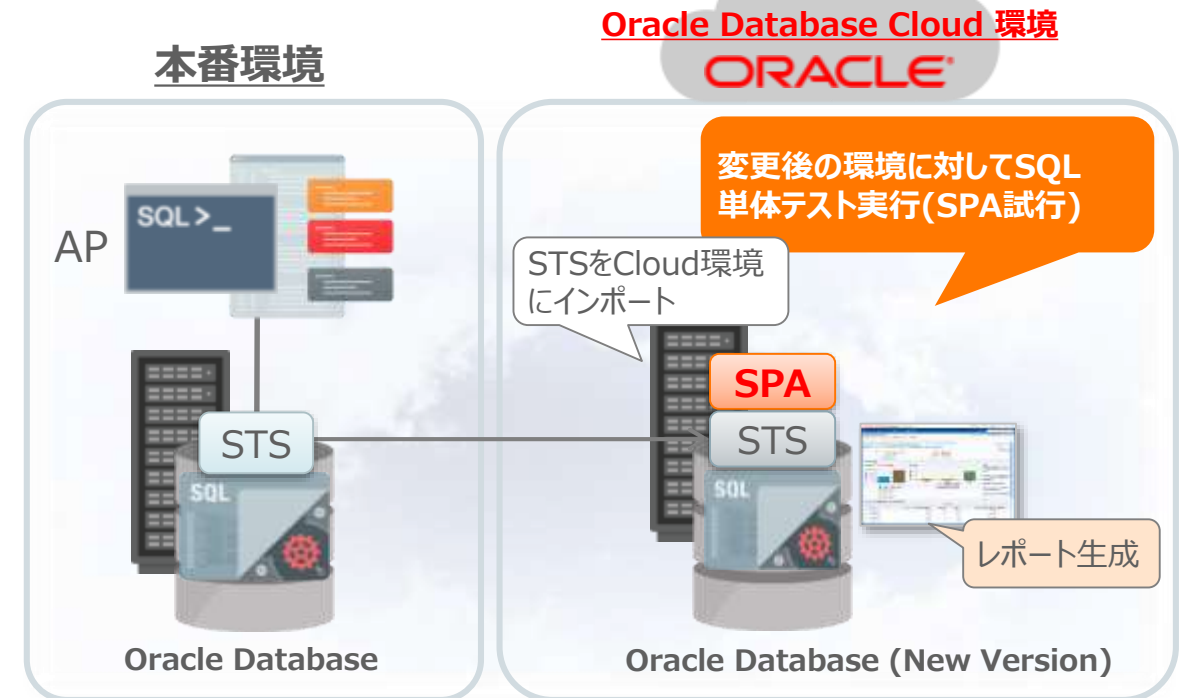
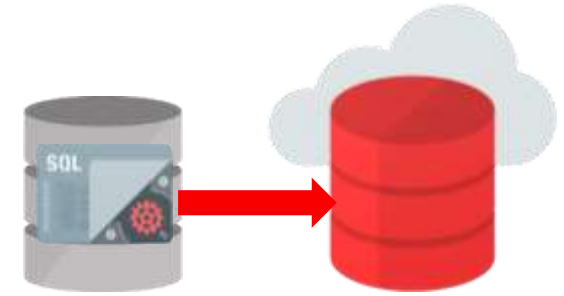
- ・ データベースのアップグレードを実施
- ・ 影響度テスト負荷・コストを削減したい
- ・ 短期間でアップグレードを実施したい

■ ソリューション

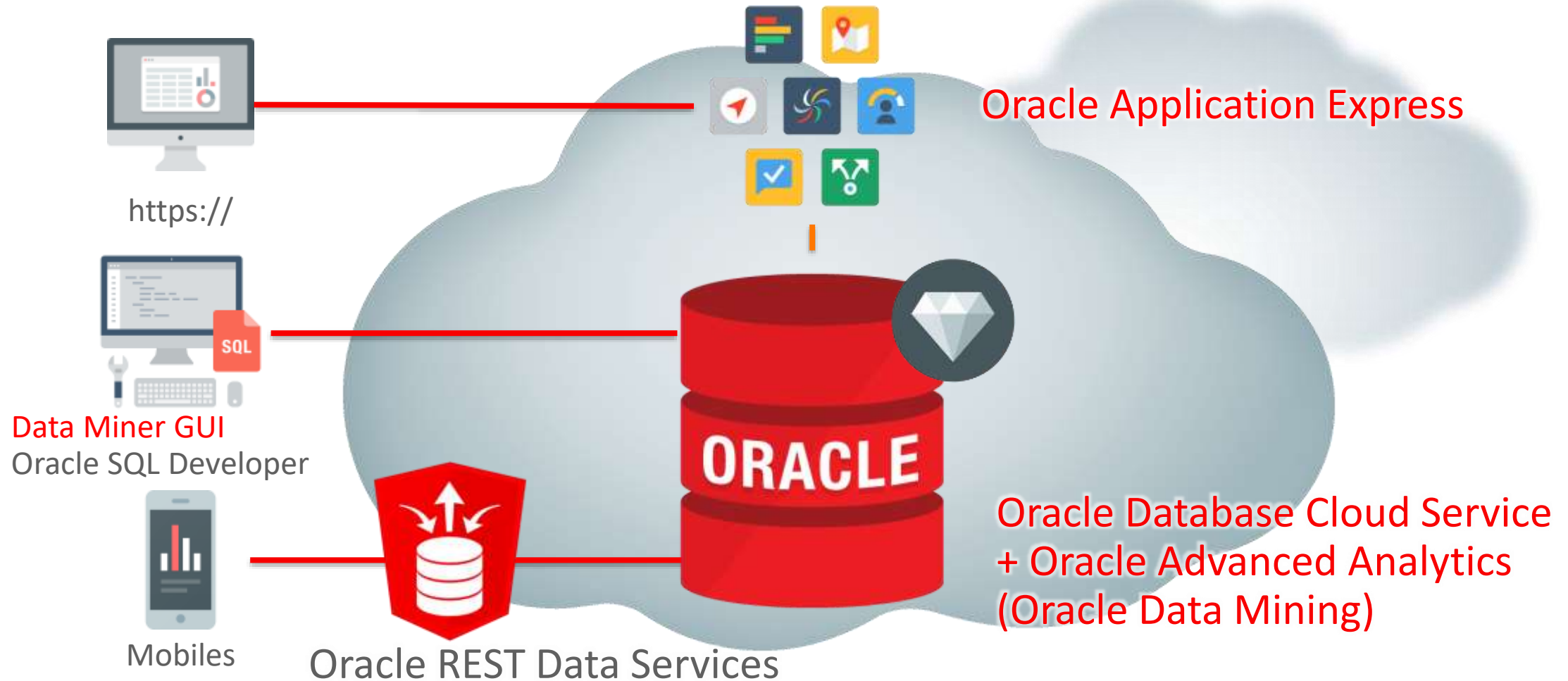
- ・ クラウド+テスト・ツールにて影響テスト
 - ✓ Oracle Database Cloud Service を用い、コストを抑えてテスト環境を準備
 - ✓ テスト・ソリューション (RAT) を用い、効率的に短期間でDBテストを実施

■ ベネフィット

- ・ 通常のアップグレードと比較し、**約7割**のコスト削減を実現



Oracle Database Cloud が持つ機械学習エンジンを活用



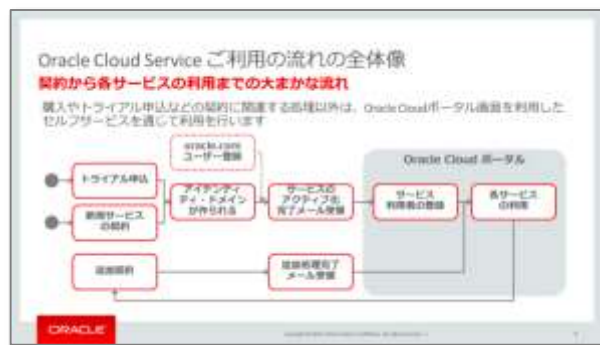
<https://codezine.jp/article/detail/9331>

Oracle Cloud 最新情報

オラクルエンジニア通信 @Slideshare

<http://www.slideshare.net/oracle4engineer/>

Oracle Cloud Service PaaS スタートアップ・ガイド



Oracle Public Cloud Service を初めて契約されたお客様のためのスタートアップ・ガイド
サービス契約完了時点から、アクティベート化処理を経て、最初のインスタンスを作成するところまでを扱っています

Oracle Database Cloud を使ってみよう



Oracle Database Cloud Service を初めて使用する方へのスタートアップガイド
一通りの操作について、画面ショット付きでステップ・バイ・ステップで解説しています

Oracle Cloud Platform デザインパターン



Oracle Cloud (PaaS/IaaS) のアーキテクチャを検討する際の設計カタログとして、典型的な過大に対し設計・構築・運用Tipsという形式でまとめています

Oracle Database Cloud Data Guard機能につ



Oracle Database Cloud Service の高可用性機能であるData Guard について、機能の詳細を解説した資料です

無料トライアル

トライアルのお申し込みサイト

- トライアルのお申し込みサイトは[こちら](https://cloud.oracle.com/ja_JP/tryit) **https://cloud.oracle.com/ja_JP/tryit**
 - 上記サイトより、ご利用したいクラウドサービスを選択し、お申し込み頂けます。
 - Oracle PaaSの各サービスは「プラットフォームとインフラ」項目をご参照ください。

Database Cloudトライアル申し込みご案内

お申し込みは数ステップでカンタン！ 30日間 お試し！！(上限\$300分)

- DBCSの詳細なお申込み方法はFAQにてご案内しております。
https://faq.oracle.co.jp/app/answers/detail/a_id/2809
へアクセス
 - Database Cloud Serviceのトライアルを申し込むと、Database Backup ServiceやJava Cloud Serviceなどもトライアル可能です！
 - 上記FAQサイトにてチュートリアルも提供しております：
 - [Oracle Database Cloud Serviceを使ってみよう](#)
 - [Oracle Database Cloud Service 体験チュートリアル - トライアル環境を使用したAPEXアプリケーション作成](#)



Oracle Digital

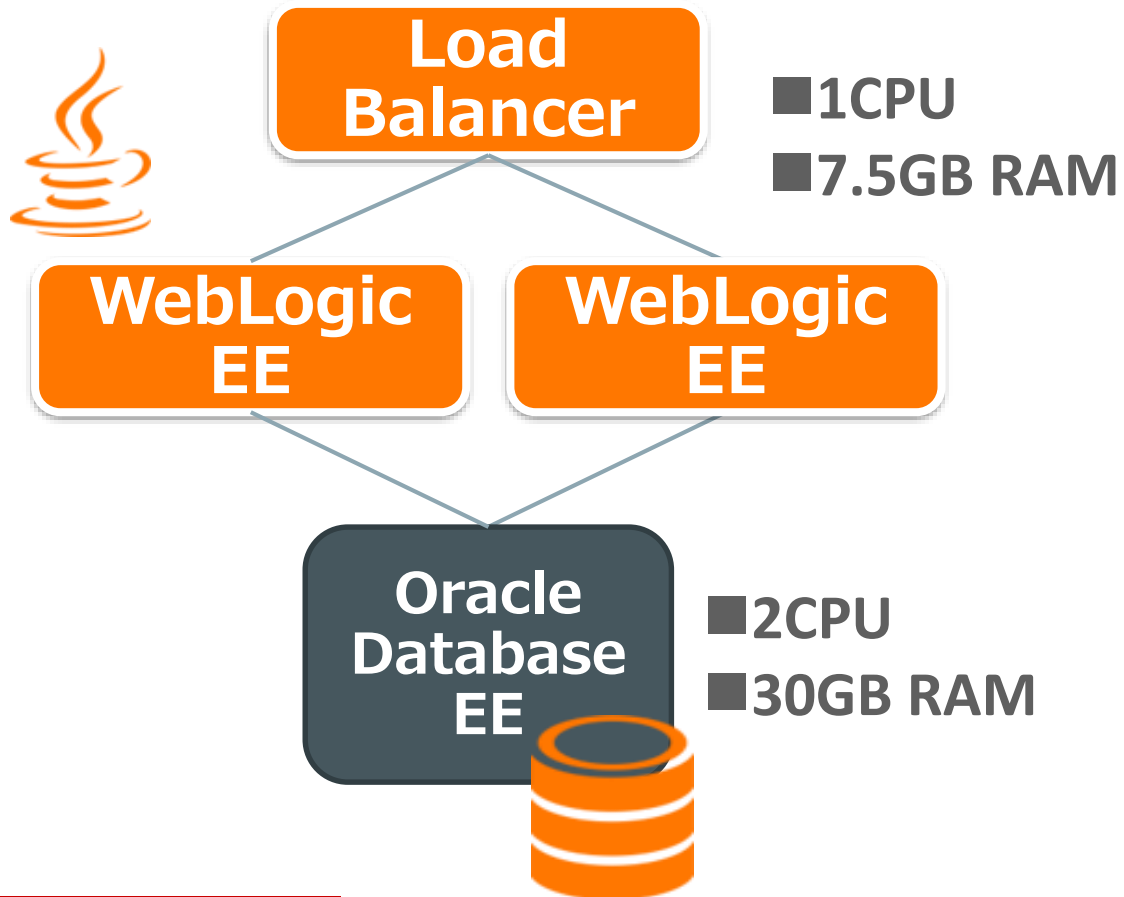
TEL 0120-155-096

URL oracle.com/jp/contact-us

無料トライアル

例えば、以下のような構成が利用可能です

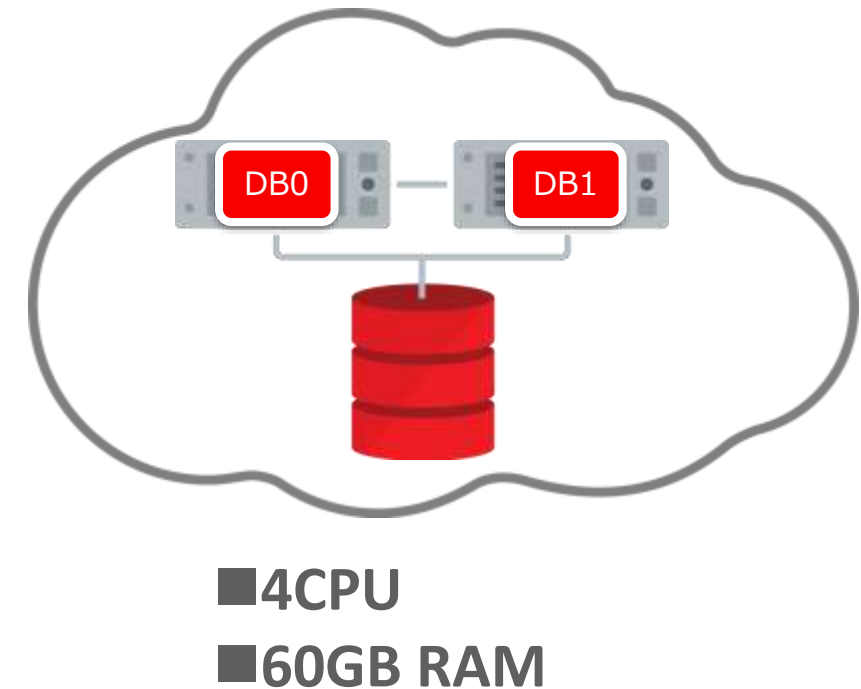
- Oracle Database & Java Cloud



※詳細はこちらから

https://blogs.oracle.com/oracle4engineer/entry/column_cloud_dbcs_trial

- Oracle Real Application Clusters



Oracle Database Cloud Service

ご利用例

Oracle Database Cloud Service: 活用例



• 開発・テスト環境/本番環境



- ✓ インフラ投資・管理が不要
- ✓ 迅速なプロビジョニング
- ✓ 利用した分だけのコスト



• オンプレミスのバックアップ



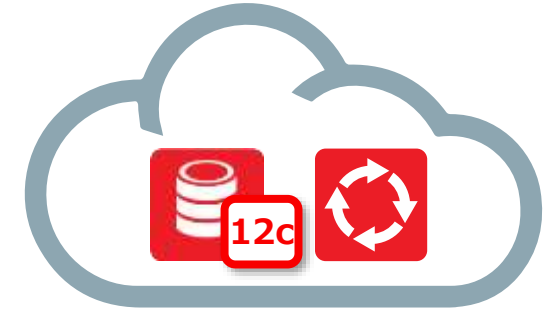
- ✓ Data Guard によるリアルタイム・データ保護
- ✓ クラウドDBを利用したリアルタイム・レポート



• Oracle Database 12c 検証

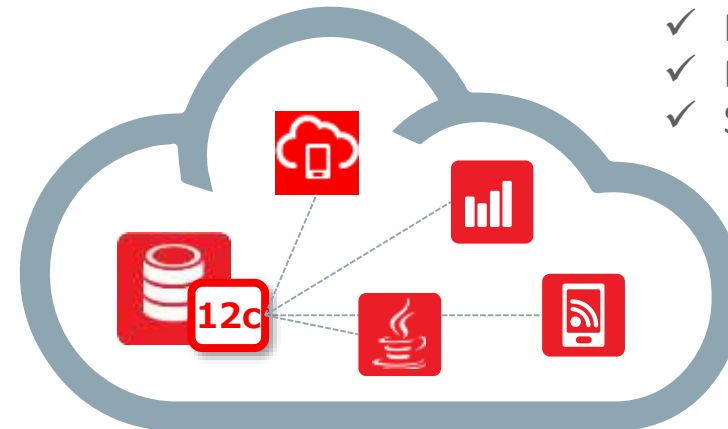


- ✓ DBインメモリ等の最新技術適用
- ✓ Real Application Testing を利用したVersion Up影響テスト



• PaaS/IaaS/SaaS 連携

- ✓ IaaS/Java : アプリ基盤
- ✓ BI : データ活用
- ✓ SaaS 強化での活用



開発・テスト環境：IaaS + BYOLに比べたPaaSのメリット

・システム開発での活用

- インフラ投資・管理が不要
- 迅速なプロビジョニング
 - ・ データベース & アプリケーション・サーバーがすぐに利用可能
- 利用した分だけのコスト
 - ・ ライセンス/保守も含めて従量制で利用可能



・データベース機能検証での活用

- Database Cloud Service では、オプション機能を含めて従量制で利用可能
- Oracle Database ライセンスを IaaS + BYOLで利用するより安価
- 活用例：国内通信業
 - ・ 業務効率改善のため短期間 & 安価に高度分析検証環境が必要 → クラウドで分析機能を利用



事例：開発迅速化 - アプリケーション開発基盤に活用

東京ガスグループ 東京ガスiネット様

・ポイント

- システム開発環境の構築時間の短縮
及びコスト削減を目的にクラウド(PaaS)
を活用

・利用サービス

- Java Cloud Service
- Developer Cloud Service
- Database Cloud Service

Press Release

東京ガスグループのティージー情報ネットワークが「Oracle Cloud Platform」の検証を開始

アプリケーション開発のスピード加速を目的に、「Oracle Java Cloud Service」を活用

Tokyo, Japan—2015/06/30

日本オラクル株式会社(本社:東京都港区北青山、代表取締役社長 兼 CEO:杉原 博茂、以下 日本オラクル)は本日、東京ガスグループでITによる事業インフラを整備し、業務改革を推進する株式会社ティージー情報ネットワーク(本社:東京都港区浜松町、代表取締役社長執行役員:岡角 健一、略称:TGアイネット)がオラクルのPlatform as a Service (PaaS)である「Oracle Cloud Platform」の検証を開始したことを発表します。

TGアイネットは、東京ガスグループのIT企業として、ITコンサルティングからシステム計画・設計、システム開発・構築、ネットワーク構築、維持管理・運用保守に至るまでの一貫したシステム・インテグレーションを行っています。東京ガスグループでは、約1,400万件の顧客情報を管理する顧客データベースを中心に、契約や利用料金の管理、請求システム、顧客対応システム等が稼働しており、現在、「増大するシステムの複雑さと大規模な障害リスクへの対応」、「エネルギー自由化といった活制への対応」などを目的に、これらのシステムの連結や再構築が実施されています。

TGアイネットは、「Oracle Cloud Platform」製品群でエンタープライズ環境向けアプリケーション実行基盤「Oracle WebLogic Server」をクラウド・サービスとして提供する「Oracle Java Cloud Service」、ならびに「Oracle Database Server」をクラウド・サービスとして提供する「Oracle Database Cloud Service」の検証を開始しました。これらのクラウド・サービスを活用することで、システム開発環境の構築時間の短縮、並びにこれに関わるコストの削減を見込むと同時に、システムの品質向上の実現を望んでいます。なかでも、「Oracle Java Cloud Service」に付属する統合開発ツール群「Oracle Developer Cloud Service」は、アプリケーション開発のスピードを加速させるものと期待しています。

また、TGアイネットは現在注力しているモバイルの領域において、「Oracle Cloud Platform」製品群でモバイル・ソリューションを提供し、エンタープライズ mobile backend as a Service (mBaaS)環境として利用可能な「Oracle Mobile Cloud Service」の活用を検討しています。

*モバイル・アプリケーションの開発・運用上で必要とするサーバー側の機能をクラウド上で提供するサービス

お問い合わせ

株式会社ティージー情報ネットワーク
www.tg-inet.co.jp

「Oracle Cloud Platform」概要
www.oracle.com/jp/cloud/paas/index.html

<https://www.oracle.com/jp/corporate/pressrelease/jp20150630-2.html>

事例：開発・検証、災害対策、機械学習まで幅広い用途で活用 テンプホールディングス様

・ポイント

- 迅速かつ効率的な開発・検証を目的にクラウド活用
- オンプレミスで利用しているExadata の検証環境としての活用

・利用サービス

- Database Cloud Service
- Exadata Cloud Service
- IaaS (Compute Cloud Service)

Press Release

テンプホールディングスが、統合基盤プロジェクトにおける開発・検証環境に「Oracle Database Cloud Exadata Service」を導入

開発・検証から災害対策、機械学習まで幅広い用途で、「Oracle Database Cloud Service」やオラクルのInfrastructure as a Serviceなどのクラウド・プラットフォームを活用

Tokyo, Japan—2016/05/30

日本オラクル株式会社(本社:東京都港区北青山、代表執行役社長 兼 CEO:杉原 博茂、以下:日本オラクル)は本日、総合人材サービス企業のテンプホールディングス株式会社(本社:東京都渋谷区代々木、代表取締役社長:水田正道、以下:テンプホールディングス)が、「Oracle Database Cloud Exadata Service」をはじめとするオラクルのPaaS「Oracle Cloud Platform」製品群を、開発・検証から災害対策、機械学習などの幅広い用途で導入したことを発表します。

テンプホールディングスは、テンプグループ各社を通じて、人材派遣、人材紹介を中心に、「人」と「仕事」に関するソリューションを提供する総合人材サービス企業です。日本全国をカバーしたネットワークとアジアを中心としたグローバルネットワークを持つ業界最大級のビジネススケール、総合人材サービス企業としての豊富なサービスメニュー、顧客企業に対する高いサービス品質を強みとしています。

テンプグループは1973年の設立以来、人材サービスの分野における積極的M&A(合併・吸収)戦略により、ビジネスの規模を拡大させてきました。一方で、グループ各社がそれぞれの業務システムを運用してきたため、システム連携

<https://www.oracle.com/jp/corporate/pressrelease/jp20160530a.html>

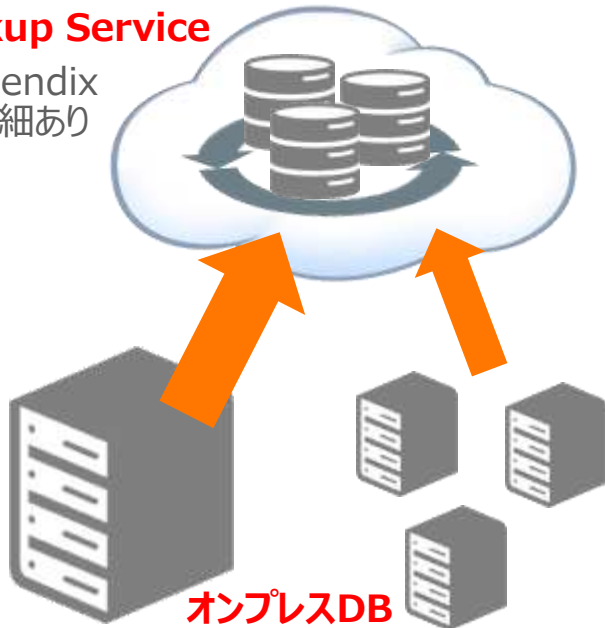
Oracle Cloud Platform を活用したオンプレミスDBの保護

バックアップをクラウドへ

- 手軽にクラウド活用
- テープ保管の代わりに

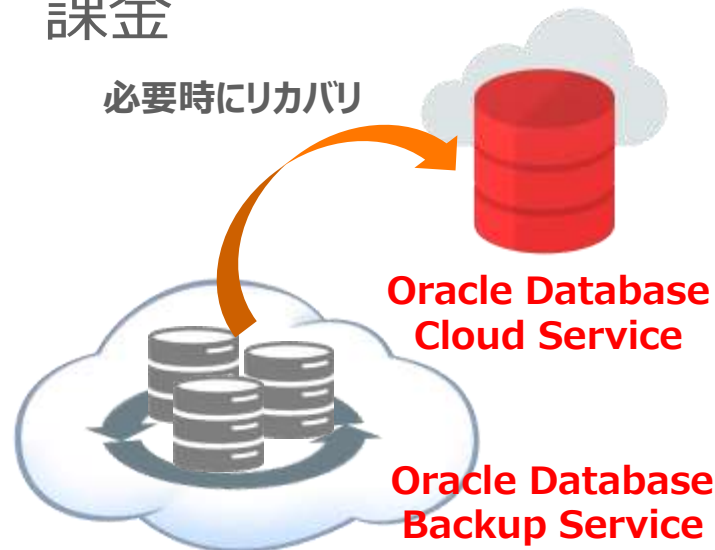
Oracle Database Backup Service

※Appendix
に詳細あり



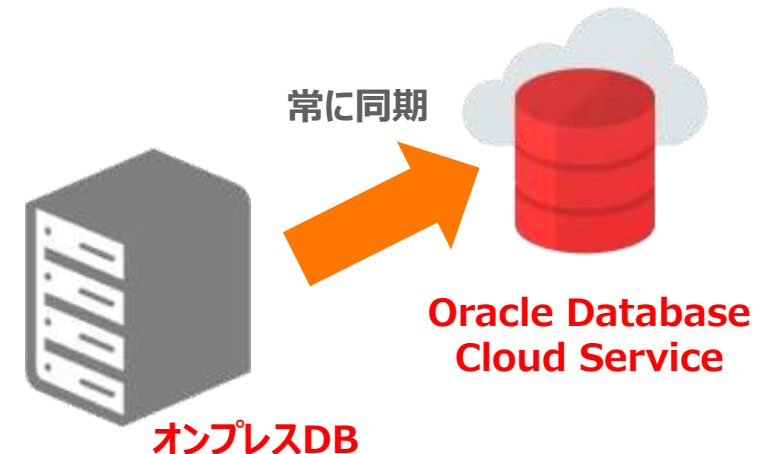
DR環境の構築： バックアップからリカバリ

- 万が一の際に、クラウドDBで復旧
- クラウドDBは稼働時のみ課金



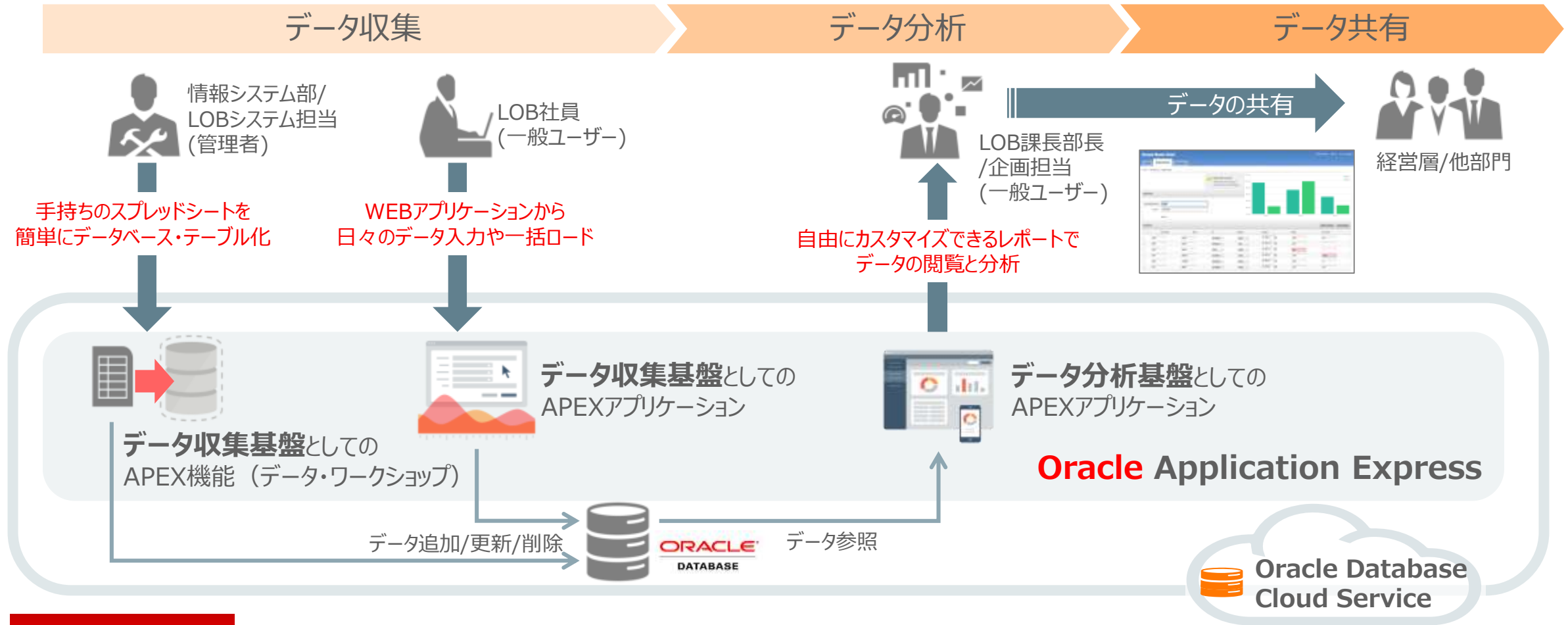
DR環境の構築： リアルタイム保護

- 常にデータを同期し、リアルタイム保護
- Data Guard / GoldenGate による同期



Oracle Application Express (APEX)

活用例：Database Cloud Service / APEX で実現するデータの収集、分析、共有



事例：インターネット求人広告データ分析のための迅速なアプリ開発を実現 アイデム様 - 求人メディアの企画・発行・運営

・ポイント

- オンプレミスと同一の「Oracle Database」を、迅速かつ安価な月額費用で利用できる点や、必要に応じてオンプレミスとクラウドの間を容易に移行できる点
- Application Express は、コーディングなしでWebアプリケーション開発できることから、新サービスを社内で迅速に開発したいという要件に合致。Database Cloud Serviceに無償バンドルされていることから、コスト面のメリットも評価

・利用サービス

- Database Cloud Service
- Application Express

Press Release

アイデム、インターネット求人広告のデータ分析のための迅速なアプリケーション開発を実現する「Oracle Database Cloud Service」を採用

アプリケーション開発機能「Oracle Application Express」を活用し、迅速かつ低コストで集計・分析システムを構築

Tokyo, Japan—2016/04/07

日本オラクル株式会社(本社:東京都港区北青山、代表執行役社長 兼 CEO:杉原 博茂、以下 日本オラクル)は本日、求人広告や求人情報など総合人材情報サービスを提供する株式会社アイデム(本社:東京都新宿区新宿、代表取締役社長:嵯山 亮、以下 アイデム)が、迅速なアプリケーション開発を目的に、オラクルのPlatform as a Service (PaaS)である「Oracle Cloud Platform」製品群のひとつで、データベース環境をクラウドで提供する「Oracle Database Cloud Service」を2015年11月に採用したことを発表します。

アイデムは、「人と企業のトータルコミュニケーション」をスローガンに、求人メディアの企画・発行・運営を中心に、雇用創出や地域発展への貢献を目指し、人材育成・人材紹介の事業を展開しています。中核事業のひとつであるインターネット求人広告の分野では、より精度の高いターゲティングやマッチングへのニーズが高く、アクセスログやユーザーの行動履歴などの大量のデータを今まで以上に迅速に集計・分析できるシステムの構築が急務とされていました。

従来アイデムでは、オンプレミスの「Oracle Database」上に構築したシステムにおいてデータ集計・分析の業務を行っていましたが、さまざまな切り口での分析を可能にするアプリケーションを、迅速に社内で開発できる環境を構築するため、このたび「Oracle Database Cloud Service」の採用を決定しました。これにより、アイデムは「Oracle Database」のアプリケーション開発機能である「Oracle Application Express」を活用して、インターネット求人広告を最適化する新たな集計・分析システムを構築する計画です。

アイデムにおける「Oracle Cloud Platform」の採用にあたり、選定理由となった主な特長は以下の通りです。

- 「Oracle Database Cloud Service」: オンプレミスと同一の「Oracle Database」を、迅速かつ安価な月額費用で利用できる点や、必要に応じてオンプレミスとクラウドの間を容易に移行できる点が高く評価されました。

<https://www.oracle.com/jp/corporate/pressrelease/jp20160407.html>

ORACLE®